

環境方針② 資源・エネルギーの循環促進

施策の方向性 廃棄物の抑制・リサイクル

7 浄水発生土の有効利用

上水 工水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
長沢浄水場では、浄水処理過程で発生する発生土を平成10年度からセメント原料として有効利用してきた。平成20年度には、道路工事の埋め戻し土（改良土）として有効利用することが可能となり、長沢・生田浄水場の発生土を有効に利用している。引き続き、浄水発生土の排出量を抑制するとともに、発生土の有効利用100%を維持する。	○浄水発生土の排出量抑制 ○浄水発生土を100%有効利用	○浄水発生土を100%有効利用 ・長沢浄水場排出量 8,350 t ⇒セメント原料 1,009 t ⇒改良土 7,341 t ・生田浄水場排出量 314 t ⇒改良土 314 t	評価 B
評価			

3か年計画の総括	今後の取組
○継続して浄水発生土を100%有効利用	○引き続き、浄水発生土の排出量を抑制するとともに、発生土の100%有効利用を維持
評価 B	



粒状改良土プラント

＜浄水発生土の有効利用の推移＞

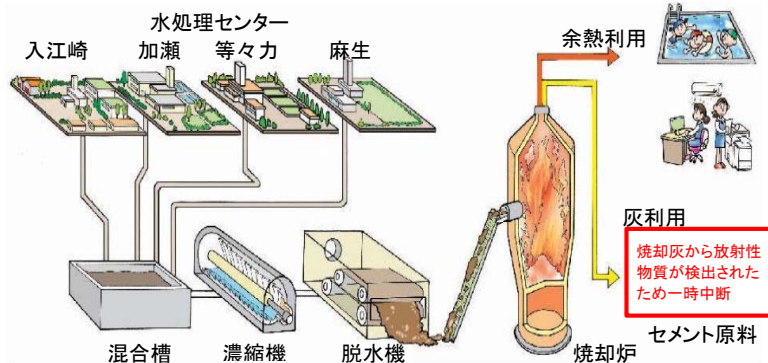
	長沢浄水場			生田浄水場		利用率
	排出量	セメント原料	改良土	排出量	改良土	
H23年度	7,364 t	1,005 t	6,359 t	1,111 t	1,111 t	100%
H24年度	6,557 t	1,002 t	5,555 t	493 t	493 t	100%
H25年度	8,350 t	1,009 t	7,341 t	314 t	314 t	100%

8 下水汚泥の有効利用

下水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
平成7年度に稼働した入江崎総合スラッジセンターでは、平成11年度から下水汚泥焼却灰のセメント原料化を進めており、引き続き資源・エネルギー有効利用の促進に努める。	○循環型社会の構築を目指し、汚泥燃料化など様々な技術について実用化の可能性を検討 ○平成22年度焼却灰リサイクル量 3,457 t	○下水汚泥焼却灰のセメント原料化を進めてきたが、平成23年3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で、下水汚泥焼却灰等から放射性物質が検出されたことから、その対応方針について全庁的な検討を実施	評価 C
評価			

3か年計画の総括	今後の取組
○放射性物質が検出された下水汚泥焼却灰等の対応方針についての検討を継続実施	○引き続き、放射性物質が検出された下水汚泥焼却灰等の対応方針について検討
評価 C	



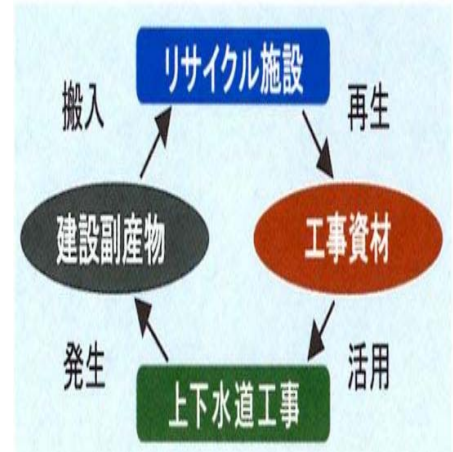
下水汚泥処理工程から発生する資源・エネルギーの利活用のイメージ

9 建設副産物のリサイクル

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
水道工事（工業用水道工事を含む。）及び下水道工事に伴い発生する建設副産物（土砂、アスファルトコンクリート等）は、可能な限り埋戻し材や舗装材料などの土木資材に再資源化し、リサイクル率の向上を図る。	○平成25年度リサイクル率目標値 ・水道工事 82% ・下水道工事 93% （川崎市建設リサイクルガイドラインにより算出）	○平成25年度のリサイクル率 ・水道工事 75.3% ・下水道工事 92.3%	
		評価	上工水
		下水	B

3か年計画の総括		今後の取組	
市の方針として、改良土から検出される放射性物質濃度がクリアランスレベルを安定的に下回るまで、改良土の使用を自粛 ○水道工事では、改良土の代わりに山砂を使用することによりリサイクル率が低下 ○下水道工事では、改良土の代替えとして使用可能な再生砂の活用により、リサイクル率を維持 [3か年のリサイクル率]		○建設副産物の再資源化や再生材の積極的な利用を継続実施	
	水道工事	下水道工事	
	目標	目標	結果
H23年度			73.0%
H24年度	82%	93%	93.2%
H25年度			92.3%
評価	上工水	C	
	下水	B	



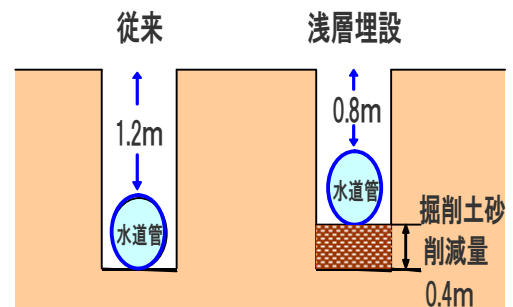
建設副産物のリサイクルイメージ

10 水道管の浅層埋設化

上水 工水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
水道管の埋設深度を浅くすることにより、工事の際の掘削量を削減し、建設副産物の発生を抑制することで、工事コストの削減に加え、運搬車両や掘削機器から発生するCO ₂ などを低減する。 （平成11年度から口径300mm以下の水道管の浅層埋設を開始し、現在の埋設深度は0.8m）	○現行の水道管の埋設深度0.8mを継続することにより、工事費の縮減及び廃棄物の抑制を実施 平成24年度CO ₂ 排出抑制量 166 t	○水道管の埋設深度を浅くすることにより、工事費の縮減及び廃棄物の抑制を推進 平成25年度CO ₂ 排出抑制量 163 t	
		評価	B

3か年計画の総括		今後の取組	
○継続して浅層埋設に取り組むことにより、CO ₂ 排出量の抑制を実施		○浅層埋設に向けた取組を継続実施	
評価	B		



浅層埋設のイメージ